

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>0 建築物の環境品質</b>								<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.6</b>	0.15	-	-			<b>3.6</b>
1.1 騒音		<b>4.0</b>	0.40	-	-			
1 室内騒音レベル	空調室内機、換気扇など騒音値の小さい機種を採用	4.0	1.00	3.0	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音	天井および、床に吸音材を採用	<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.7</b>	0.35	-	-			<b>2.7</b>
2.1 室温制御		<b>3.3</b>	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
4 ゾーン別制御性	空調機は個別制御が可能である。	4.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.3</b>	0.25	-	-			<b>2.3</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30	-	-			
1 昼光率		1.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		<b>2.0</b>	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		2.0	1.00	3.0	-			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-			
<b>4 空気環境</b>		<b>4.3</b>	0.25	-	-			<b>4.3</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	F の建材を100%採用。ホルムアルデヒド以外のVOCについても少ない建材を全面的に利用	5.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>3.3</b>	0.30	-	-			
1 換気量	建築基準法で定める換気量の1.2倍以上の換気量を確保	4.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		<b>4.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	建物館内は禁煙である	5.0	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-			<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.7</b>	0.40	-	-			<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>4.0</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性	執務スペースが9㎡/人以上	4.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応	複数の通信事業者の回線が引き込まれており、館内のLAN設備等計画している	4.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の誘導基準の望ましいレベルを満たしている	4.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		3.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-			
3 内装計画		3.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	外構、屋内の動線部分に段差はない、屋外鉄骨階段は垂鉛メッキとする。	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	十分な広さの清掃員控室を設置している。専用部以外の諸設備は共用部での維持管理が可能	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.6</b>	0.31	-	-			<b>3.6</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.8</b>	0.48	-	-			
1 耐震性	建築基準法に定められた耐震性の25%増の耐震性を有する	4.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.6</b>	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	補修必要間隔は30年以上である	4.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水40年、排水40年以上	4.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔	主要設備機器の更新必要期間は16年以上である	4.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性		3.6	0.19	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電、無停電電源を設置、サーバ-室は独立電源系等	5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	精密機器の地下空間の設置回避	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性		3.3	0.29	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり		4.0	0.31	-	-	
1 階高のゆとり	階高3.7m以上	4.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	基準階の壁長さ比率0.19	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性		3.0	0.38	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制		3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		4.0	0.20	-	-	4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用	太陽光発電(定格27kw)を設置しすべて自己用に利用している	5.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化	ERR値が28%	4.6	0.30	-	-	4.6
集合住宅以外の評価( ERRによる評価)	ERR=28%	4.6		-	-	
集合住宅の評価		-		-	-	
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護		3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水	自動水栓、節水型便器、擬音装置を使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.9	0.63	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤利用、再生材を用いた舗装用ブロック、磁器タイル	5.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	躯体と仕上げの別が可能。仕上げと設備の別が可能	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.22	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	壁紙用接着剤、サッシ、ガラスシリングに化管法における対象物質を含まない	4.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3 冷媒		3.0	1.00	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出量が一般建物の81%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.33	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		-	-	-	-	
3 交通負荷抑制	敷地内に駐車場、駐輪場を設け搬入車スペースを設けている	4.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮		2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		2.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		1.0	0.30	-	-	